湘南医療大学　ティーチング・ポートフォリオ

大学名　湘南医療大学
所　属　保健医療学部看護学科
名　前　城戸滋里
作成日　2026/06/04

1.　教育の責任　792 字

私城戸滋里は、2025 年度に赴任し、1 年次生の看護学概論、看護基礎ゼミ、ボランティア学チューター企画、看護基盤実習 I、ナーシングスキル学Ⅰ、および 2 年次生のナーシングプロセスI、ナーシングスキル学 II、看護基盤実習Ⅱに携わっている。また、今年度から新たに開校した茅ヶ崎キャンパスにて新 1 年次生のチューター役割も担っている。看護学概論では、看護学を学ぶ初学者にとって必要な、看護の歴史的変遷から看護とは何かを理解し、各種看護理論家の理論を把握することで、看護学が大切にしている対象の理解と看護の原理原則、および看護学の重要な要素となる人間、環境、健康、看護を踏まえながら、現代日本における看護制度や看護教育の経緯、および看護にまつわる法律、倫理、管理を教授している。

看護基礎ゼミは 1 年次生のチューターにより教授される本学独自の科目で、新 1 年生が大学生として必要な大学での学び方や学修方法などについて丁寧に教授している。看護基盤実習Ⅰは隣接する茅ヶ崎中央病院を担当する予定であり、今年度は新たに対象者とのコミュニケーションを通して関係性を深める内容が含まれ、より臨床に近づける良い機会となると考える。

また、ナーシングプロセスⅠでは、今後受講予定の看護基盤実習Ⅱで、学生が受け持つ患者様への看護をスムーズに考えられるべく看護過程演習を進めている。それと同時進行で実施しているナーシングスキル学 II で、看護技術演習を受け持っているが、1 年次のナーシングスキル学Ⅰに引き続き、2 年次前期では注射・点滴・経管栄養・吸引等の高度な技術へと進み、看護基盤実習Ⅱに備える学生への支援を行っている。

さらに、4 年次生の統合実習では、茅ヶ崎キャンパスに隣接している湘南健康管理クリニックで実施予定であり、健康診断・人間ドック・茅ヶ崎市民検診等種々の健康審査を受ける地域の方々に寄り添える実習となるように支援したいと考える。

2.　私の理念・目的

1)　私の理念

私の教育の理念は、自分で考え行動できる学生を育てたいということである。看護学を主体的に学び、基本の大切さを把握した上で、その上に応用力を積み重ねられること、状況判断ができる柔軟性を身につけられる学生を育てることである。これは大学でとりわけ優等生と思われた学生が、卒後頭打ちになっていく姿を幾度となく目撃していることにある。評価を気にして自己の考えを広げられず、良い点数を取ることが目標になってしまうと、卒後の現状に柔軟に対応しにくいと思われるからである。

2)　私の教育目的

私の教育目的は、丁寧な教育と、手をかけすぎない学生支援で早期自立を目指すことである。下地となる教育は丁寧に行い、その中で考えさせるヒントをできるだけ多く出すために、看護学概論の中でも可能な限り臨床での事例を提示しながら授業を進めている。その中から、

学生個々が看護を感じ取り、自分ならどう考えるか試行錯誤しながら受講してもらいたいと考えている。学生には、失敗を恐れず何度でもチャレンジできる精神を持つことが必要と考える。最近では、人間関係が希薄で失敗を恐れる学生が増えているうえにそれ以上の要求に自らストップをかける傾向が見て取れる。学生のうちの挫折は成長の糧となり、就職後の精神力に大きく影響していくものと考える。そのためには、学生個々の考えを尊重しつつ自信をつけ、良い方向に導くことが必要であり、その後の自立に役立つと思っている。

3) 理念をもつに至った背景

私は文系の大学を卒業後、社会人を経験した後に看護教育を受けた。そこで、実感したのは看護教育カリキュラムの過密さと、臨地実習時間の多さであった。昔の教育と言えばそれまでだが、一つひとつ考える間もなく教員の指示のもと、臨地実習でほとんどの看護技術をこなしており、社会生活をしてきた経験も生かせず、自分の立ち位置にも迷う日々であった。しかし、就職先の環境は、看護師が自分で考え責任をもって看護を実践する風潮があり、医師やコメディカルとも当たり前に連携する文化があったため、患者に発生している問題を抽出し、何ができるかを考え、他者と協働する事の大切さを看護に活かす経験ができた。その後、教員になってからもこの病院で行った経験を活かして、学生個々の考えを生かした学修を展開することができたことが背景にある。

3. 教育の方法・戦略

私の教育方法・戦略は、自分で考え行動できる学生の育成である。そのためには、この 4 年間で自分にとって看護学を学ぶことの意義を明確に捉え、実践を重ねる度に成長していける学生を育てることが大事だと考えている。そのためには、教育目的でも述べたように、講義等の折に触れ、臨床場面と看護学を融合させられるような事例を提示し、看護学の学修を通して将来の自分の姿を想像できるように導くことと考える。

初学者であっても臨地実習を通して様々な看護場面に触れ、実践を重ねることで、自分が何を大切に看護したいのかを感じ取ることができると考える。その積み重ねが看護観を培うことへとつながるのだと思っている。さらに、その看護観を支援し、悩んだ時に振り返ることができるためには、学生の傾向に準ずる看護理論を提示するのも教員の役割と考えている。

4. 学習成果

1) 昨年度は、1 年次前期の看護基盤実習 I にて老人保健施設を受け持ったが、まだ学修が進んでいない認知症高齢者との関わりや何度も繰り返される同じ回答にも、どう対応したら良いかを学生カンファレンスで考えさせたところ、話し合いと共に看護師にコツを伺うなどして、翌日の対応方法を協力して導き出していた。翌日の実習では、前日の話し合いを活かして意欲的にコミュニケーションをとり、記録からも成長が窺えた。

また、ナーシングスキル学 I については、従来の直前デモンストレーションを減らし、教員同

士で技術の VTR を撮り学生がいつでも確認できるようにしたことで、事前に練習してくる者が増えて、演習グループ間で教え合う様子が窺えた。また、ある程度学生のレベルを配慮したグループを作ることで、話し合いのレベルも上がり、逆に学修不足のグループも学修の必要性を感じられる場面が認められた。

しかしながら、ナーシングプロセスⅠについては、患者情報からのアセスメントに個人差が大きく、どのくらい正しい知識を加えて分析できるかがその後の関連図の組み立てにも大きく影響してくる結果であった。

3) 昨年度から担当している看護学概論は、入学したばかりの 1 年次生が初めて看護に触れる科目でもある。そのため、看護とは何かという問いに応えられるように、世界や日本における看護の変遷から看護の4つの要素、看護理論家の各種理論、看護に関わる法律、倫理、管理などを享受した。しかしながら、臨床場面を知らない初学者が看護を理解するためには、できるだけかみ砕いた説明とイメージの付きやすさが必要であると考える。臨床現場等の具体的例を多用しながら説明を実施している。また、1 年次生が東戸塚キャンパスと茅ヶ崎キャンパスに分かれるため、昨年度はその場で 5 分間の小テストを実施していたのを manaba 提出に変えて、授業時間を全 90 分とした。そのため、テスト結果の迅速な集計が可能であり、講義の理解度の早期把握が可能となる。

5. 改善のための努力

看護基盤実習Ⅰの前に、看護場面の具体的事例を多く提示し、臨地をイメージしやすくすることに努める。また、看護理論家の理論を教授する中で、特にウィーデンバックなどから看護の哲学を通して、学生でも看護観を持てることを伝える。さらに、ナーシングスキルⅠでは、看護基盤実習Ⅰでの体験が生かせるように、臨地で見聞きした看護を想起させながら実施を促し、また、ナーシングスキルⅡでは看護基盤実習Ⅱに繋げられるように学修の積み重ねを意識して講義や演習を実施したいと考える。

今後の目標

1) 短期目標:学生にとって学びやすい授業の組み立てや、実施方法について考えていきたい。既習得科目を次の科目に生かせるように、記憶を想起させながら次のステップへと積み重ねたいと考える。

2) 長期目標:看護基礎教育を臨地にどのように反映していくのが良いのかを、長期スパンで考えていきたい。そのためには、基盤領域での教育をどう臨地に応用していくのか、またどの単元や項目を対象に実施できるのか、他の領域とも摺り合わせながら着地点を見つけたいと考える。長期スパンなので、4～5年を目途に達成としたい。

【添付資料】